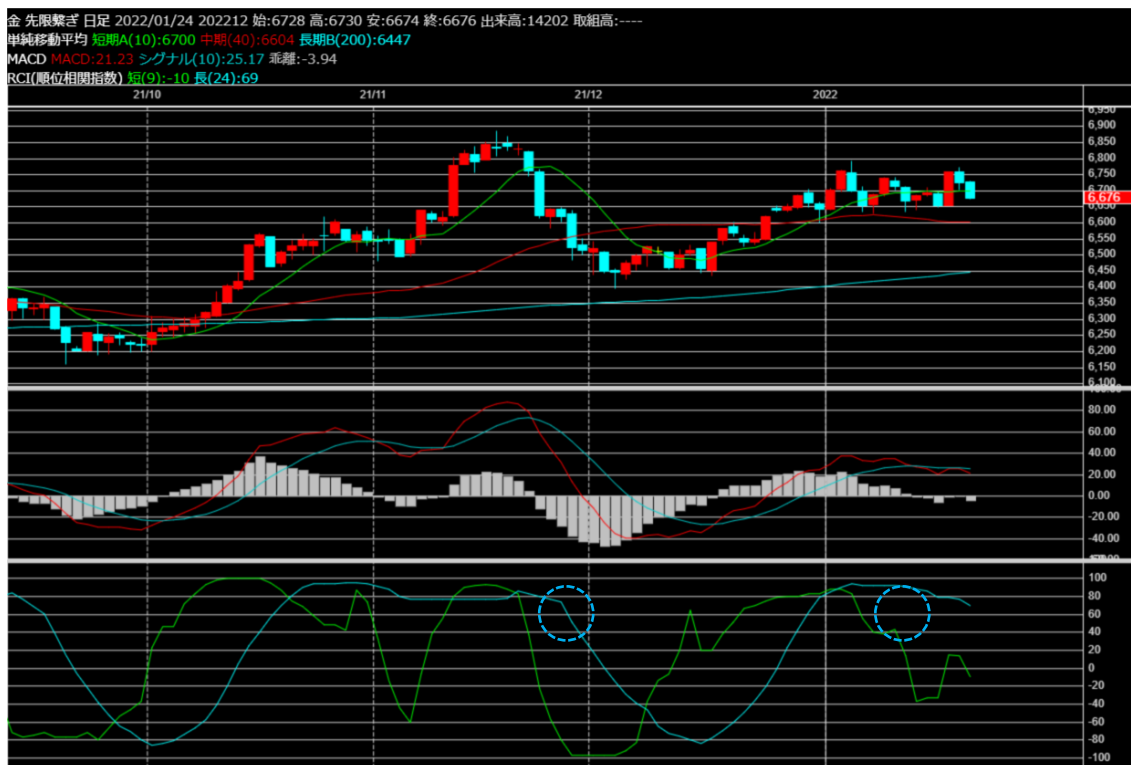


<金標準先物、テーパリングと地政学的なリスクの綱引き・・・>



(出所：オアシス)

金利を生まない金にとって債券市場における 10 年物国債金利が一時 2020 年 1 月来の 1.875%まで上昇するなど、金価格の戻りを抑え込む金利上昇を示している。

特に今週は 26 日に FOMC を控え、3 月の利上げに向けた地ならしを行う状況と見られ、パウエル FRB 議長の記者会見でのタカ派の発言が聞かれる可能性は高い。

特に経済指標ではインフレ高の悪影響が出始めており、開始時期から利上げ幅や利上げ回数に話題性は移行する状況と思える。

しかし昨年末からウクライナ情勢で、米国、NATO や欧州連合とロシアが協議を行っているが、ロシア軍はウクライナ国境付近に集結し、ロシア海軍の複数の揚陸艦が黒海に向けて南下するなどウクライナ情勢は緊張が高まりを見せている。特に地政学的なリスクの高まりは 2014 年 2 月ウクライナ領土であったクリミア半島にロシア軍の侵攻と同様であり、当時の金標準は 400 円の上昇を行なっている。

そのため今週の 26 日の FOMC に向けて下値を試す値動きの可能性は高いが、ウクライナ情勢を受けて緊張が高まると下げ渋る展開が予想される。

<テクニカル>

金標準先物の日足を MACD と RCI で見ると、MACD では、MACD がシグナルを下回る動きを見せながら、RCI では短期が切り下げながら、長期も切り下げだしている。特に日足が 10 日移動平均線を下回り、40 日移動平均線に受けて下げているため、6604 円で推移している 40 日移動平均線に向けて下値追いが強まると思える。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 393,000 円(2022 年 1 月 24 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 33,000 円(2022 年 1 月 24 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会が開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-3249-8827 (受付時間:平日 8:30~17:30)
証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>